

東北学院大学 ラーニング・コモンズ「コラトリエ」における 2023年度の学生スタッフの活動

Activities of Student Staff at the Learning Commons “Colatelier”

in Academic Year 2023

東北学院大学 教養教育センター 遠海 友紀
ラーニング・コモンズ 嶋田みのり

1. はじめに

現在、多くの大学で学生スタッフが活躍しており、学生を支援人材として登用することは、授業などの教育活動の円滑な実施や学習支援の充実だけでなく、学生スタッフとして関わる学生にとっても有益である（遠海 2019）と考えられている。大学内で活動する学生スタッフの活動内容や役割は様々であるが、その活躍の場は、大きく授業内と授業外にわけてみていくことができる。授業内での受講生に対する支援については、Teaching Assistant（以下、TA）やStudent Assistant（以下、SA）が活動している。特に大学院生が担うことの多いTAは比較的早くから取り組まれてきた活動である。TA制度が日本の大学に導入された時期は明確ではないが、1968年には大学院博士課程の学生が非常勤助手という名称で、採用されたことが確認されている（小笠原ら 2006）。また、学部生が担うことが多いSAについては、文部省高等教育局（2000）から出された「大学における学生生活の充実方策について（報告）—学生の立場に立った大学づくりをめざして—」という報告書が、多くの大学でSAが導入されるきっかけになったと立山（2013）は説明している。

授業外での学生スタッフの活動については図書館やラーニング・コモンズ（以下LC）、パソコンなどが設置されている情報処理演習教室などの学習施設の環境整備や利用者に対するサポート、オープンキャンパスや新入生向けのイベントなどの大学行事への参画、留学生や障がいのある学生への支援など、活躍の場は多岐にわたる。また、図書館やライティングセンター、LCでは、アカデミックライティングや学習相談などに取り組む学生スタッフも活躍している。「令和3年度の大学における教育内容等の改革状況（概要）」（文部科学省 2023）によると、ライティングセンター等日本語表現を高めるセンター等を設置する大学は、2018年度は11.9%であったが、2021年度には15.0%となっており、増加傾向にある。また、LCを含むアクティブ・ラーニング・スペースを整備活用する大学は2018年度時点では78.4%だったが、2021

年度には84.1%となっており、こちらも増加傾向にある。このような状況に伴い、授業外での学習支援に関わる学生スタッフは、近年増加していると推測される。

授業内外の様々な場面において学生スタッフが活躍しているが、沖（2015）は、学生スタッフを「その分野における専門性を持ち、教職員と協働して大学の様々な業務に従事する学生」と定義し、図1のように整理している。



図1. 学生スタッフ（沖 2015、p20） ※一部筆者加筆

東北学院大学でも様々な場面で学生スタッフが活躍しているが、本稿では、図1（沖 2015）の「学生業務スタッフ」や「ピア・サポーター」として、ラーニング・コモンズ「コラトリエ」（以下、コラトリエ）で活動する学生スタッフの2023年度の活動を報告する。2023年度は五橋キャンパス開学に伴い、学内に設置されているLCが2拠点になった。そのため、コラトリエの運用体制が大きく変化した。また、これまで学習支援担当教員で対応してきたアカデミックスキルに関する学習支援に学生スタッフに関わるようになった。こういった変化の中における学生スタッフの位置づけや役割を確認し、1年間の取り組みを振り返る。

2. ラーニング・コモンズにおける学生スタッフ

LCは、主として学生を対象とし、学習支援のためのサービス、資料、設備を総合的にワンストップで提供する学習支援空間（呑海・溝上 2011）である。LC内で行われる学習支援は汎用的技能に関する支援、特定/専門的スキルに関する支援、包括的な学習支援など（嶋田 2023）多様であるため、それに従事する学生スタッフの活動も様々であるが、LCで活動する学生スタッフは、授業内で学生への支援を行うのではなく、授業外で支援を行うことが大きな特徴である。また、学生スタッフの活動には教職員が関わり、活動の調整や研修を実施したりするため、大学における正課外教育の機会としても捉えることができる。LCで活動する学生スタッフを図1（沖 2015）の分類でみていくと、「学生業務スタッフ」または「ピア・サポーター」に該当するが、活動内容によっては、両方を兼ねることもある。

3. 東北学院大学ラーニングコモンズ「コラトリエ」で活動する学生スタッフ

東北学院大学のLCであるコラトリエは、2016年9月に土樋キャンパスに開設された。LCが大学図書館における新しい学習空間として普及してきた経緯から、多くの大学で図書館に設置される傾向があるが、土樋キャンパスのコラトリエは図書館とは別に設置され、運用されている。また、2023年4月に新しく設置された五橋キャンパスには、コラリエ・ライブラリーが設置され、運用が始まった。コラトリエ・ライブラリーは図書館とLCが一体になった施設であるが、運用については、図書館部分は図書情報課、LC部分は土樋キャンパスのLCと同様に学修支援課のラーニング・コモンズ係が担当している。加えて、両キャンパスのLCの運営にはアカデミック・サポーター（以下AS）という名称の学生スタッフや、学習支援担当教員が関わっており、学習支援担当教員は、学習に関する個別相談対応やアカデミックスキルに関するセミナーなどを実施している。筆者らはコラトリエの学習支援担当教員として、活動内容の検討、募集と採用、研修の企画と実施、活動のサポートなど、ASの運用全般にも関わっている。

2023年12月現在、ASの業務内容は大きく2つに分かれている。1つ目の業務は、土樋キャンパスのコラトリエでの施設利用に関するサポートである。この活動は、2017年度に開始した（遠海 2019）。この業務に関わるASを「カウンター対応AS」とする。図1（沖 2015）によると、彼らはその活動内容から、大学（LC）から委託された業務を行う「学生業務スタッフ」と捉えることができる。

2つ目の業務は、ライティングサポートを中心としたアカデミックスキル支援に関わるサポートである。こちらは2023年度4月から始まった取り組みで、五橋キャンパスのコラトリエ・ライブラリーで活動している。この業務に関わるASを「学習相談対応AS」とする。図1（沖 2015）によると、彼らは学生同士で学びあう業務に従事する「ピア・サポーター」と捉えることができる。以下に、それぞれの2023年度の活動内容をまとめる。

4. 「カウンター対応AS」の活動

4.1. カウンター対応ASの2023年度の活動概要

2023年度、カウンター対応ASは、授業実施期間中、土樋のLCでカウンターでの利用者対応（施設や備品貸し出し、利用方法についての質問対応など）、施設の環境整備（整理整頓・清掃作業など）や閉室作業、LCを学生に知ってもらうための広報活動（AS掲示板の運用、X：旧Twitterの投稿内容の検討など）、オープンキャンパス等での見学対応などに取り組んだ。また、毎月1回、第2木曜日の4時間目に定期ミーティングを行っている。カウンター対応ASの2023年度の活動は表1の通りである。カウンター対応ASは、9名（12月時点）で活動に取り組んでおり、それぞれ1週間に1～2回程度勤務している。

表1. 2023年度カウンター対応ASの活動

月	内 容
4月	・シフト調整 ・2023年度カウンター対応AS第1回研修（4月13日） ・2023年前期活動開始（4月17日～）
5月	・定期ミーティング（5月11日）
6月	・定期ミーティング（6月8日） ・後援会総会対応（6月10日） ・オープンキャンパス対応（6月24日）
7月	・定期ミーティング（7月13日） ・オープンキャンパス対応（7月29日）
8月	
9月	・2023年度カウンター対応AS第2回研修（9月13日） ・2023年後期活動開始（9月15日～）
10月	・定期ミーティング（10月12日）
11月	・定期ミーティング（11月9日） ・AS新規採用活動
12月	・新規採用AS活動開始（12月4日～） ・新規採用AS初回研修（12月7日） ・オープンキャンパス対応（12月9日） ・定期ミーティング（12月14日）
1月	・定期ミーティング（1月11日） ・2023年度カウンター対応AS第3回研修（1月25日）
2月	
3月	・継続採用手続き

4.2. カウンター対応ASによる広報活動について

広報活動として、AS掲示板の運用とLCの公式SNSであるX（旧Twitter）の文案検討に取り組んだ。掲示板は、コラトリエ・コモンズに1台、コラトリエ・リエゾンに1台設置している。コモンズの掲示板には、ASの自己紹介やその時々企画を掲示している。2023年度は、キャンパス紹介や、新たな気づきがあったと感じた授業についてのアンケートなど、学生が大学のことを知る機会になるような情報の提供を意識した企画が展開された。リエゾンの掲示板では、担当ASが新聞記事を1つ選び、感想と併せて掲示することで、学生が新聞に興味を持つきっかけ作りを意図した掲示を続けた。

2023年度は新たに、コラトリエが運用しているXを用いた広報にも取り組んだ。これまでは、学習支援担当教員が内容を検討しており、定期的な情報発信が難しいことが課題となっていた。そこで、AS目線で主に土樋キャンパスのコラトリエの様子についての情報を定期的に発信し、学生にコラトリエの魅力を伝えることを意図した。毎回の勤務時間に投稿する文案（必要に応

じて写真も)をASが検討し、教員が内容を確認した上で投稿している。毎回の勤務時に文案を考える必要があるため、内容検討に苦勞したASもいるが、定期ミーティングで内容に使えるような話題を検討するなどして対応した。投稿された内容は、多いときには1000名以上の目に触れることもあり、コラトリエの大きな広報ツールとなっている。また、文案を考えることは、ASがコラトリエの普段の様子を観察する機会となっている。

4.3. カウンター対応ASの定期ミーティングについて

毎月の定期ミーティングでは、1か月の活動の中で気が付いた点の共有や、AS掲示板の運用に関する相談、その時々で必要になる検討事項の確認などを行っている。ミーティング前に学習支援担当教員がミーティングで共有すべき内容をまとめたメモを作成するが、司会や書記はASが担当する。ミーティングの議事録は、昨年度までは教員が作成していたが、今年度から書記を担当したASが作成するようにした。また、毎月のシフトカレンダーも昨年度までは教員が作成していたが、ミーティングで翌月のシフトカレンダーの作成担当を決め、完成したものを教員が確認して展開する流れに変更するなど、ASに任せる部分を増やした。

4.4. カウンター対応ASの研修について

カウンター対応ASには活動の一環として、前期授業開始前、後期授業開始前、授業が終了した年度末に研修を行っている。研修では、カウンターでの利用者対応の心構えや具体的な対応方法、ICT機器の操作方法といった業務に必要な基本的な知識やスキルに関する内容だけでなく、スタッフ間の関係構築に関するワークなども実施している。研修は学習支援担当教員が内容を検討し実施しているが、その際には教員の考えだけではなく、ASの意見も踏まえて検討するようにしている。また、内容によってはASに講師を任せることもある。

五橋キャンパス開学に伴い、学内2か所でのLCの運用が始まったことで教職員の勤務体制が大きく変わった。また、2023年3月に土樋キャンパスコラトリエ内のシステムやICT機器の入れ替えを行ったため、カウンターでの利用者対応が大きく変わった。そこで、第1回研修では、活動に際しての心構えに加え、変更点の確認を重点的に行った。第2回研修では、2023年8月に実施された機器入れ替えの対応についての説明や新しく設置された電子黒板の使い方を確認した上で、さまざまな仕様変更に伴い利用者からどういった質問があるか想定するワークを行った。年度末の研修は1月下旬に実施し、業務の振り返りに加え、コミュニケーションや働き方の意識に関連したワークを行った。

4.5. カウンター対応ASの採用活動と新規採用ASへの研修

2024年度4月から円滑に活動を再開できるよう、11月に新規採用活動を行った。新規採用にあたっては、LC運営委員会で検討された申し合わせ事項を踏まえ、募集要項や応募書類のフォーマットを作成し、広報している。応募の際には、志望動機などを書いた応募書類と合わせて成績表の提出を求めている。また、応募者には学習支援担当教員が面接を行い、LC運営委員会での審議を経て採否を決定している。

新規採用ASに対しては、勤務開始前後に初回研修を実施し、コラトリエやASについて知ってもらったうえで、業務中に意識してほしいこと、業務に関する手続きなど、ASとして活動する上で必要となる知識について説明した。なお、この研修は同時期に新規採用した学習相談対応ASと合同で行った。カウンターでの利用者対応や閉室作業、広報活動など、実際の業務については、勤務時間を先輩ASと同じ時間になるように調整し、先輩から指導を受ける体制をとっている。業務内での先輩ASからの指導内容は、11月の定期ミーティングでASが作成したリストを活用している。先輩ASが新規採用ASへの指導を担当することで、先輩ASが活動についての理解を深めるだけでなく、スタッフ間の関係構築の機会にもなっている。

4.6. 2023年度におけるカウンター対応ASの活動の成果と課題

2023年度はコラトリエの運営体制の変化や、土樋キャンパスコラトリエにおける大規模なシステム入れ替えなどの結果、カウンター対応ASの活動内容もそれに合わせて多くの変更が必要になる1年となった。施設運用に関わる職員らと綿密に情報を共有しながら、変化に対応することができたが、LC内の機器入れ替えは次年度以降も継続する予定となっているため、今後も教職員間で情報を共有しながら、対応の検討を進める必要がある。

また、LCの運用が2か所に増えたことや、学習相談対応ASの活動が始まったことで、学習支援担当教員の業務が増えたが、これまで教員が担当していた作業の一部をASに任せることができた。その結果、AS間でのコミュニケーションの機会がこれまで以上に増えた。今後もカウンター対応ASが活動において、彼ら自身の自律性を発揮したり、AS同士の関係構築に寄与できる機会を増やしていきたい。

5. 「学習相談対応AS」の活動

5.1. 学習相談対応AS設置の経緯と準備

コラトリエでは2016年度の開設当初から、学習支援担当教員がアカデミックスキルに関する学習支援に取り組んできた。学生をスタッフとして雇用し、アカデミックスキルに関する学習支援に参画させる計画はLC開設準備段階からあったが、大学院生の在籍状況やLCが設置され

たキャンパスの所属学生が文系学部3・4年生のみだったことなどの理由から、まずは学習支援担当教員のみで学習支援を始めた。学生スタッフによるアカデミックスキルに関する学習支援に関しては、2023年度のキャンパス統合を見越して、支援内容や方法、学生スタッフの運用に関する知見と実績を積み重ね、準備をしてきた。

2023年度、新たに開始した学生によるアカデミックスキルに関する学習支援は、2016年度から取り組んできた学習支援担当教員による学習支援の取り組み内容が基礎になっている。教員による学習支援は主に学部生を対象とし、ライティング支援を中心とした個別相談とアカデミックスキルに関するセミナーを展開してきた。個別相談は、当初対面のみでの対応だったが、コロナ禍を経てZoomを用いたオンラインでも対応するようになった。ライティングに関する学習支援の方針は、最終的な成果物を完璧なものにすることを目指す（プロダクト重視）のではなく、書き手（学習者）を育てることを目指し、プロセスへの支援を重視しており、これらはASが参画するようになってからも継続している。

また、学生スタッフの雇用には、制度の運用方法、採用手続き、関連する規定の制定、必要な予算の獲得など検討すべきことが多々あるが、学習相談対応ASの運用に関しては、2017年度後期から培ってきたカウンター対応ASの運用の仕組みを活用している。つまり、学習相談対応ASの活動は今年度から新たに始まったものであるが、その活動内容や運用の仕組みについては、ゼロから検討を始めたわけではなく、これまで取り組んできた方針や方法を活かしている。

一方、学習相談担当教員だけで取り組んできたアカデミックスキルに関する学習支援にASが参加するようになったことで、教員とAS間で情報や教材などの資料を共有する仕組みや、必要なツールの準備、学習支援実施に向けた研修内容については、新たに検討する必要がある。そのため、活動開始に向けて、まずは情報や資料共有の方法の検討から始めた。検討の結果、現在、教員とAS間の情報や教材などの資料共有には、大学から発行されているGoogleアカウントを活用し、Googleドライブ上で行っている。教員と学習支援担当AS間では、学習相談の申し込み状況、対応記録、学生スタッフの活動報告に加え、毎月の定期ミーティングの議事録、学生スタッフによる企画やオープンキャンパスで使った資料などを共有している。Googleドライブを使うことで、複数の場所から資料にアクセスできること、同時に資料にアクセスして作業することなどが可能になっている。

学習支援に必要なツールとしては、ICT機器があげられる。東北学院大学では、BYODを推進しているため、相談にくる学生は自分のパソコンを持参する。しかし、ASが対応する際には、AS個人の端末を使うのではなく、業務用にパソコンを貸し出すことにした。該当のパソコンは、シャットダウンするとすべてのデータが削除される設定になっており、端末に記録が

残らない。また、相談にきた学生のレポートなど、パソコン画面上の資料をASと相談者が一緒に確認しやすいように、モニターを各相談スペースに設置した。加えて、相談対応などの活動の際に、資料のデータ化や印刷が必要になることがあるため、スキャナつきのプリンタを用意した。

5.2. 学習支援担当ASの2023年度の活動概要

学習相談対応ASによる相談対応は、ASの人数などを踏まえた結果、まずは五橋キャンパスのコラトリエ・ライブラリーから活動を始めることになった。なお、土樋キャンパスのコラトリエでは、学習支援担当教員が相談に対応している。

学習支援担当ASが関わる学習支援の具体的な内容は、主に初年次生を対象とした個別相談である。相談対応がないときは、企画の検討、オープンキャンパスや施設見学の対応、学習支援関連の掲示物作成、X（旧Twitter）の投稿内容の検討などに取り組んでいる。また、毎月1回、第3木曜日の4時間目に定期ミーティングを行っている。個別相談については、対応が複雑になりそうな相談や、卒論や大学院進学に向けた研究計画などの相談については、教員が対応している。学習相談対応ASの2023年度の活動は表2の通りである。学習相談対応ASは7名（12月時点）で活動に取り組んでおり、それぞれ1週間に1～2回程度勤務している。なお、学習相談対応ASについては、表2以外にも、2023年4月から円滑に活動を始めるために、2023年2月に採用活動を行い、3月に3回の研修を実施した。

5.3. 学習相談対応ASによるアカデミックサポートデスクの運用について

五橋キャンパスの運用開始に伴い、学習相談対応ASは五橋キャンパスのコラトリエ・ライブラリーに設置されたアカデミックサポートデスクでの対応を始めることになった。しかし、4月の活動開始時点で、アカデミックサポートデスクに関する掲示物は、ほとんど未着手の状況であった。そのため、学習相談対応ASはまず、エリア名の表記や学習相談の申し込み方法の案内、担当者紹介カード、当日の予約状況が確認できるボードなどの掲示物の作成から始めた。併せて、学習相談に関するポスターを作成し、講義棟の学修支援課管轄の掲示板に掲示した。2024年1月には、相談者がより訪れやすくなるようにアカデミックサポートデスクのレイアウト変更を行ったが、その際の配置検討や掲示物作成も学習相談対応ASが参画した。

また、カウンター対応ASと同様に、学習相談対応ASもXの投稿文案検討を行っている。学習相談対応ASは、主に五橋キャンパスのコラトリエの様子について情報発信することを意図しており、毎回の勤務時に投稿する文案（必要に応じて写真も）を作成し、教員が内容を確認した上で投稿している。

表2. 2023年度学習相談対応ASの活動

月	内 容
4月	・2023年度 学習相談対応AS第1回研修（4月10日、11日、12日） ・シフト調整 ・2023年前期 活動開始（4月17日～）
5月	・定期ミーティング（5月18日）
6月	・後援会総会対応（6月10日） ・定期ミーティング（6月15日） ・オープンキャンパス対応（6月24日）
7月	・定期ミーティング（7月27日）
8月	
9月	・2023年度 学習相談対応AS第2回研修（9月8日） ・2023年後期 活動開始（9月15日～） ・定期ミーティング（9月21日）
10月	
11月	・定期ミーティング（11月16日） ・AS新規採用活動
12月	・新規採用AS初回研修（12月7日） ・新規採用AS活動開始（12月8日～） ・オープンキャンパス対応（12月9日） ・定期ミーティング（12月21日）
1月	・定期ミーティング（1月18日） ・2023年度学習相談対応AS第3回研修（1月25日）
2月	
3月	・継続採用手続き ・2023年度学習相談対応AS第4回研修（3月下旬に実施予定）

さらに、ASは後援会総会やオープンキャンパスにおいて実施される施設見学ツアーの際、施設の概要紹介や施設内見学の案内などを担当している。2023年度のオープンキャンパスはすべて五橋キャンパスで開催されたため、学習相談対応ASが中心となって担当表などの資料作成に取り組んだ。

5.4. 学習相談対応ASの定期ミーティングについて

毎月の定期ミーティングでは、1か月の活動の振り返りや、相談対応時に困ったことなどを共有し、対応方法について検討している。また、新入生向けの企画の検討や準備、オープンキャンパスなどでの見学者対応の準備作業などにも取り組んでいる。ミーティング内で終わらなかった作業については、分担したうえで各々の勤務時の作業とし、適宜、学習支援担当教員が内容や資料を確認しながら指示を出したり、相談に対応したりしている。カウンター対応ASのミーティング同様、事前に教員がミーティングで共有すべき内容をまとめたメモを作成

するが、司会や書記はASが担当し、議事録作成も書記を担当したASが作成している。

5.5. 学習相談対応ASの研修について

学習相談対応ASの研修内容を検討に際しては、2023年度4月の活動開始に向けて、4月の時点で何ができるようになっておく必要があるのか検討することから始めた。検討の結果、初年次生を対象とした個別相談と新生向けの企画の検討に取り組めるようになることを目指し、4月の運用開始に向けて、2023年3月に計3回、4月の前期授業開始前に計3回の研修を実施した。また、後期の授業開始前にも研修を実施した。研修は、これまでの相談実績からレポートに関する相談が多いことが想定されたため、ライティング支援に関する内容について行った。具体的には、ライティング支援の基本的な考え方や、チューターの役割、実際の相談の流れを想定したケーススタディなどである。また、コラトリエで作成・公開しているレポートの書き方に関する資料を用いて相談に対応できるよう研修を行った。加えて、2023年度から運用が開始されたeポートフォリオに関する相談も予想されたことから、ポートフォリオの使い方や、目標設定や振り返り、タイムマネジメントに関する研修も実施した。2023年度9月までに実施した研修の内容は、表3のとおりである。

表3の内容に加え、1月下旬に年度末研修を実施した。また3月には外部講師によるファシリテーション研修を予定している。また、カウンター対応ASと同様に、11月に採用活動を行い、学習相談対応ASを新たに採用した。彼らには、カウンター対応ASと合同での初回研修を行ったあと、12月から1月にかけて、学習支援担当教員による研修や、先輩ASによる指導を継続的に行っている。

5.6. 2023年度における学習相談対応ASの活動の成果と課題

2023年度は、活動内容の検討、採用活動、研修の企画・実施、実際の運用開始などを経て、学習相談対応ASが初年次生らの学習相談に対応できる環境・体制・状況を作ったことが、今年度の大きな成果である。次年度に向けて、まずは学習相談に対応するASの様子や、相談した学生の反応を確認しながら、現状にあった研修や支援を実施し、学習相談に対応できるASを育成し増やしていくことを次の目標としたい。そのためには、学習相談対応AS同士の学びあいの体制づくりが必要であると考えている。

現在、学習相談対応ASの研修は、想定される相談内容から逆算して設計している。学生が学生スタッフとして学習支援に関わる際には研修を受講し、質の高い支援を利用者に提供することが求められる。しかし、岩崎（2020）は、日本での学習支援の歴史はまだ浅く、学習支援に関わる学生スタッフとして習得が求められる能力の整理や研修の実施、その評価に関する

表3. 2023年3月から9月にかけて実施した研修

日時	内 容
2023年3月13日	ファシリテーション入門講座 ・ファシリテーションとは、企画会議 ※外部講師によるコモンズイベントを研修の一環とした
2023年3月20日	土樋キャンパス ラーニング・コモンズと学習相談について ・東北学院大学のラーニング・コモンズについて ・学習相談について、ライティング支援について
2023年3月27日	ポートフォリオと目標設定、 五橋キャンパス ラーニング・コモンズについて ・ポートフォリオと目標設定について ・タイムマネジメントについて ・想定される相談事項の検討、新入生に対する企画の検討
2023年4月10日	ライティングについて学ぶ ・レポートライティングについて、レポート点検の観点整理
2023年4月11日	レポートの分析とレポートの学習相談対応練習 (1) ・レポートの分析・解説、学習相談対応ケーススタディ
2023年4月12日	レポートの分析とレポートの学習相談対応練習 (2) ・レポートの分析・解説、学習相談対応ケーススタディ
2023年9月8日	9月研修 ・後期シフトの検討 ・前期活動の振り返り、学習相談対応学生スタッフに必要な力の検討 ・ライティングに関する学習相談対応ケーススタディ

る知見はまだ十分ではないことを指摘している。対して、北米ではCRLA (College Reading & Learning Association) が、学習支援に携わるチューターに国際認定資格を付与する制度としてITTPC (International Tutor Training Program Certification) 設けており (CRLA 2021)、日本でも名桜大学やはこだて未来大学、神田外国語大学では、この認証を受けて学習支援が実施されている。しかし、ITTPCで示されている「評価基準・行動目標・評価方法」をライティング支援のチューター育成にどう活用できるのか検討した岩崎 (2020) は、ITTPCの資格取得に必要な研修には、専門的な知識が求められる場合もあるため、学習支援を担う組織の教職員だけ対応しきれない可能性を指摘している。こういったことから、日本において国際的な認証を受けて実施される学習支援は多くなく、学習支援の実施に際しては、それぞれの大学の学習支援担当者が、支援目的や内容から研修内容を検討し実施している状況である。こういった国内の学習支援の実施状況に関する状況も継続的に確認し、他大学での取り組みも参考にしつつ、東北学院大学の学生に合わせた、よりよい支援を展開できるよう検討していくことが必要となる。

6. まとめ

本稿では、コラトリエにおける2023年度の学生スタッフの活動を振り返った。2023年度は五橋キャンパス開学に伴いLCが2拠点になったことで、コラトリエの運営体制が大きく変化した。そのため、これまで学習支援担当教員が行っていた作業をASに任せるなど、活動をより円滑に進められるよう工夫が求められた。また、ASによる学習支援を始めたことは、2023年度の大きな成果の1つである。新しい取り組みを始めるにあたり、様々な検討・準備が必要であったが、これまでコラトリエの学習支援担当教員として2016年から取り組んできた知見を活かして、準備に取り組むことができた。次年度以降も、学生の様子を観察し、必要に応じて体制や仕組みを改善することで、東北学院大学の学生に合ったよりよい学習支援の運営に取り組むことが求められる。

付記：本研究はJSPS科研費JP20K03100、JP20K14032の助成を受けたものである。

参考文献

- 岩崎千晶（2020）「ITTPCによる国際チューター認証資格に基づくライティングチューターの育成方法」『関西大学高等教育研究』第11号、pp.43-54
- 遠海友紀（2019）「ラーニング・コモンズ『コラトリエ』における学生スタッフの活動－2017年度の取り組みについて－」『東北学院大学教育研究所報告集』第19集、pp.57-66
- 小笠原正明・西森敏之・瀬名波栄潤（編）（2006）「TA（ティーチングアシスタント）実践ガイドブック（高等教育シリーズ 139）」玉川大学出版部
- 沖裕貴（2015）「『学生スタッフ』の育成の課題－新たな学生参画のカテゴリーを目指して－」『名古屋高等教育研究』第15号、pp.5-22
- 嶋田みのり（2023）「学習環境デザインブックの開発 学習支援のデザインを中心に」『大学教育学会2023年度課題研究集会発表要旨集録』 pp.32-33
- 立山博邦（2013）「大学におけるスチューデント・アシスタント（制度）の考察－日米比較の観点から－」『社会システム研究』第26号、pp.137-150
- 呑海沙織・溝上智恵子（2011）「大学図書館におけるラーニング・コモンズの学生アシスタントの意義」『図書館界』63巻2号、pp.176-184
- 文部科学省（2023）「令和3年度の大学における教育内容等の改革状況について（概要）」https://www.mext.go.jp/content/20230908-mxt_daigakuc01-000031526_1.pdf（閲覧日 2023年12月23日）

文部省高等教育局 (2000)「大学における学生生活の充実方策について (報告) - 学生の立場に立った大学づくりを目指して -」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm (閲覧日 2023年12月23日)

College Reading & Learning Association. (2021) . *International Tutor Training Program Certification (ITTPC)* (<https://www.crla.net/>) (2023年12月23日)